

二〇二〇年一〇月一日(参加者二三名)

吊るされてくの字しの字の唐辛子

明日香

芋育つ丹波日ぐせの朝霧に

菜々

峠道霧を抜ければ小京都

満天

朝霧にまつげ濡らして通学子

菜々

箸置きは唐辛子なる焼肉屋

智恵子

と見る間に釧路湿原霧襖

かかし

枝豆は霧に育つと丹波人

うつぎ

天を突く架橋の主塔霧の中

よう子

霧を出て霧へ入りゆくケーブルカー

やよい

霧襖踏んまへて立つ大鳥居

素秀

海峡の霧笛しきりの朝かな

わかば

高牧の霧の奥より牛の声

智恵子

里ひとつ隠す速さや霧流る

たか子

WEB句会みのる選・二〇二〇年一〇月一日

後で効く母の小言や唐辛子

よう子

霧の道テールランプを頼みとす

ぼんこ

唐辛子辛さ爆発までの時差

豊実

縦走の先を行く人霧の中

うつぎ

霧晴れてあがる歓声河童橋

はく子

霧深し養鱒場へ続く溪

せいじ